

「まだがんばる」と言った子

先週の金曜日に、強歩会がありました。今年は昨年より距離が伸び、３５kmまで挑戦できるようになりました。それだけに、子どもたちの意欲も高まっていたように感じます。

歩いている中では、さまざまなドラマがありました。３０kmを目指して歩いていたときのことです。名古屋市内の中心部に近づくほど、疲労が限界に近づいてきます。ある子が、こう言いました。

「先生、足が痛くなってきました。もうリタイアしようかな……」

「無理はしないようにね。どうする？」と尋ねると、少し考えてからこう返ってきました。

「でも、最後まで歩き切ったら気持ちいいだろうな。だから、まだがんばる」

それを聞いた別の子が「一緒に頑張って歩こ！」と声をかけ、二人は歩き続けていきました。

■　「頑張りぬく気持ちよさ」を知っている

この言葉から感じたのは、子どもたちが「頑張りぬいたあとの気持ちよさ」をすでに知っているということです。おそらく、去年の強歩会で味わったのでしょう。

もう頑張れないかもしれない、という場面で粘り強く取り組めるか。これはレジリエンスと呼ばれる力です。今回も、「ここで止まりたい自分」と「まだ頑張れる自分」の間で揺れながら、最後まで歩いた子がたくさんいたのだと思います。

■　「来年こそは歩き切りたい」

足の痛みなどで、完歩しなかった子がこのように言っていました。この悔しさは、とても大切な思いです。自分の体ときちんと向き合い、これ以上は怪我につながると判断できたこともまた、大切な力です。そのうえで悔しさが残ったのなら、それは次に向かう力になります。来年、歩き切ったとき。きっとこの子は、あのときの悔しさを晴らしたと感じるはずです。リタイアしたから、目標に届かなかったからよくない、ということではありません。**今年の経験を、来年への礎**にしてほしいと思います。

一人ひとりが自分自身と向き合いながら歩くイベント、それが強歩会です。歩いた距離だけでなく、自分とどう向き合ったかを、ぜひご家庭でも話題にしてみてください。

おにぎりのご準備、朝早くからの送り出し、本当にありがとうございました。

■　算数とつながった１日

実はこの時期、算数では「100cmをこえる長さ」を学習しており、強歩会ではどれくらい歩けるかを考えていました。

当日、歩きながら「算数で歩いたくらいのペースだ」と話している子がいました。教科の学習が、生活の中でそのまま使われた瞬間です。こうしたつながりをこれからも大切にしていきます。



















